

校長室の窓から

兵庫県立三木高等学校長 前田 哲男

H29 No.4 H29.10.23.

2017年学校年度も約半分が過ぎました。この半年間の間、教職員も生徒も一丸となりながら、本校の目指すべき学校重点目標の実現に向けて取り組んできました。改めて学校の重点目標を掲げてみますと、

- 1 グローバル教育の拠点校としての魅力を発信する
- 2 進学重点校としての期待に応えられる進路指導、キャリア教育を進める
- 3 生徒を主体に据えた教育活動を展開し、生徒の自主性を育てる

今回は、この目標の1番目に掲げるグローバル教育への取り組みとして、去る10月14日（土）に開催された東播磨地区英語スピーチコンテストについて、ご紹介をしたいと思います。

本校からは、男子生徒1名、女子生徒1名の2名の生徒が参加しました。このスピーチコンテストに至るまでは、参加生徒の決定、テーマの決定、スピーチ原稿の作成、そしてコンテストに向けての猛練習と長い道のりがありました。英語科教員、外国語指導助手（ALT）の先生方の献身的なサポートのもと、2名の生徒たちは、本当によく努力しました。私も本番前の何回か練習を見ましたが、練習を重ねるごとにそのスピーチにこめたメッセージが、聞く者の心に届くようになってきたな、と実感できるようになっていました。

そして、コンテストの結果、なんと1位と2位を本校の生徒が受賞しました。東播磨地区の多くの学校からすばらしいスピーチが披露される中、本校の生徒が1位、2位を受賞したことに、改めて生徒の努力を讃えると共に、今後の本校の取り組みに元気を与えてくれるものと確信しています。

1位に輝いたのは、2学年の佐同柄文主君で、スピーチのタイトルは、”Facts about Yemen”です。イエメンにおける貧困に苦しむ人々の様子や、内戦のこと、そして将来イエメンのために自分が力を尽くすことができればという思いを聴衆に訴えました。



2位に輝いたのは、2学年の福田桃子さんで、スピーチのタイトルは、”Three Precious Years”です。このタイトルから想像される内容を大きく覆す展開で、話の内容は、トイレットペーパーの使い方、そして環境問題へと展開。様々なデータに基づく話を、わかりやすく、時にはユーモアを交えて聴衆に語りかけました。



私は、2名に代表される三木高校の生徒たち、そして彼らを精一杯サポートする教職員を大変誇りに感じています。11月4日の県大会でもすばらしいスピーチを披露してくれると信じています。